

【数字を読み解く】 5. 6

～6月の実質預金の伸び率 給付金入金、貸出一部が預金に滞留～

<2020/9/4 大分合同新聞掲載>

数字は、日本銀行大分支店が毎月公表している「主要金融経済指標・長期時系列データ」にある、6月の大分県の実質預金（NCDを含む）の前年比伸び率だ。

実質預金とは表面預金から未決済の手形・小切手を引いたものをいい、NCDとは譲渡性預金の略で、第三者に譲渡可能な自由金利預金のことを指す。表面預金とは、金融機関の勘定上の預金、すなわち預金者が持込んだ現金や他店払手形・小切手を含む預金全体を指すが、未決済の他店払手形・小切手は、手形交換を経て資金化するまでは、実際に利用することができない。このため、表面預金からこれらを差し引くことで、金融機関が運用可能な資金として「実質預金」を算出している。

大分県の実質預金の伸び率は、5月に前年比プラス6.2%と1995年以降で最も高い伸び率となり、6月も同プラス5.6%と高い伸びを維持している。これは、①特別定額給付金や持続化給付金が入金されたこと、②各金融機関が企業向け貸出を積極化（6月の貸出残高は前年比プラス3.0%と4年振りの高い伸び率）しており、同資金の一部が預金に滞留していること、③先行きの不透明感が強い中で、各企業や家計が支出抑制に努めていることなどが要因と考えられる。

足元では、各企業・家計ともひと頃に比べ手元資金を厚めに確保しているが、収入の減少が続く先では、同資金を取り崩す動きもみられており、今後の動向を注意深くみていく必要がある。（日本銀行大分支店）